

幼児教育学科 1年 前期 専門科目

1. 保育原理
2. 教育原理
3. 子ども家庭福祉
4. 保育の心理学
5. 子どもの保健
6. 幼児理解
7. 保育内容(健康)
8. 保育内容(言葉)
9. 保育内容(身体表現)の指導法
10. 乳児保育 I
11. 幼児と音楽表現 I
12. 幼児と造形表現
13. 臨床美術
14. 保育表現技術(言語表現)
15. 保育実習指導 I

幼児教育学科					
科目名: 保育原理			担当教員 氏名: 清水 美里		
単 位	開講時期(年次・期)	科目の区分	授業方法	(卒業要件) 必修/選択	
2	1年次	前期	専門科目	講義	必修 保育士資格指定科目(必修) 社会福祉主事任用資格
実務経験を用いてどのような授業を行っているか:		保育教諭としての実務経験を活かして、保育現場の事例を踏まえながら保育の目的や保育に関連する法令や制度等を教授する。			
授業科目の学修教育目標の概要:				キーワード	
<ul style="list-style-type: none"> 保育の意義及び目的、保育所保育指針における保育の基本について理解する。 保育に関する法令及び制度、保育の現状と課題について理解する。 保育の思想と歴史的変遷について理解する。 				<ul style="list-style-type: none"> 保育の目的 保育所保育指針 法令及び制度 保育の思想と変遷 	
授業における学修の到達目標					
学修教育目標 (卒業認定・学位授与の方針との関連)					
A 知識・理解力	保育・教育の基礎的な知識を身に付け、保育者や保育所の役割を理解する。				
C 論理的思考力	保育の目的や方法等保育の基本について、保育所保育指針に基づいて論理的に説明することができる。				
D 問題解決力	保育者の役割や環境の関係性を理解し、保育課題を考察する力を身につける。				
E 自己管理能力	保育者の社会的責任や倫理を理解し、保育者としての「私」をつくる。				
G 倫理観					
成績評価の方法・基準: 以下の方法により評価し、学期および履修要項に従い、60点以上を単位認定とする					
テスト: 60 %	レポート: 40 %	発表: %	実技試験: %	その他: %	
特記事項:					
アクティブラーニング要素: 課題解決型学修 ディスカッション、ディベート グループワーク プレゼンテーション 実習、フィールドワーク					
テスト・レポート・発表・実技試験等の実施時期: テストは、別に定めた日時に実施する(小テスト、中間・期末テスト)。毎時間、課題レポートの提出あり。					
課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法: テストは採点後に返却する。レポートは、コメントを口頭または記載してフィードバックする。					
授 業 計 画			準備学修(予習・復習等)		
			学修内容	学修に必要な時間(分)	
①オリエンテーション(授業の目的、内容、評価方法の確認) 保育の理念と概念(保育の定義)			【事後】授業内容、課題の確認、 保育とは何か、自分の考えを記入		
②保育の理念と概念(子どもの最善の利益と保育) 子ども理解に基づく保育(子どもの発達過程)			【事前】指針p.371,374,380基本事項Aを読む 【事後】p.118~119歳3月未満児の発達を覚える、子ども理解での学びをノートに記入		
③保育の社会的役割と責任(保育所と保育者の役割)			【事前】指針p.13~17を読む 【事後】幼・保・こども園の違いをまとめる p.118,119~2歳児の発達を覚える		
④保育の目標と内容(保育における養護、保育の基本原則)			【事前】指針「ねらい及び内容」を読む 【事後】幼児期の終わりまでに育ってほしい姿、育みたい資質・能力とは何かをノートにまとめる、p.119 3・4歳児の発達を覚える		
⑤保育の環境・方法(環境を通して行う保育)			【事後】保育室の環境図を考える、指針「保育の方法」をまとめる、p.120 5・6歳児の発達を覚える		
⑥保育の過程(保育の計画)			【事前】保育所の保育計画を調べる 【事後】指針p.45~50を参考に指導計画のポイントをまとめる		
⑦保育の過程(保育の評価) 中間テスト(子どもの発達、保育の目標と内容)			【事前】子どもの発達過程・指針の復習 【事後】子ども理解に基づき評価をまとめる		
⑧保育に関する法令及び制度(子ども家庭福祉における保育の関係法令)			【事前】全国保育士倫理綱領を読む 【事後】テスト復習		
⑨日本の保育の現状(現代の子ども・子育てをめぐる問題)			【事前】会計特殊出生率を調べる 【事後】子育て支援の重要性を子どもに関する問題を挙げてまとめる		
⑩保育の実施体系(子ども・子育て支援新制度、地域社会で行う子育て支援)			【事前】子育て支援事業の資料を読む 【事後】指針p.392,393を読む		
④諸外国の保育の思想と歴史1(欧米の教育・保育について調べる)			【事後】p.173,174の学びの振り返りをする、 欧米の思想家についてまとめる		
⑦日本の保育の思想と歴史(幼稚園・保育所・認定こども園の歴史)			【事前】p.161,162を読む 【事後】それぞれの施設の歴史をまとめる		
⑬諸外国の保育の思想と歴史2(欧米の教育・保育の発表) 日本の保育の現状(子ども基本法について)			【事前】発表練習、p.28~32を読み、こども基本法を復習 【事後】こども基本法クイズを解く		
⑭期末テスト(海外と日本の思想と歴史、法令) 日本の保育の現状(災害への備え)			【事前】保育の思想・歴史、法令の復習 【事後】災害に対する保育者に必要な備えについてノートにまとめる		
⑮保育者のあり方(役割、職務内容)、多様化する保育			【事前】事例への対応をノートに記入 【事後】自分がなりたい保育者像とそうなるためのプロセスを記入		
使用テキスト:				その他参考文献など:	
1. 岡田耕一(編著)「保育原理 子どもの保育の基本理論の理解」(萌文書林)ISBN: 978-4-89347-423-0					
2. 民秋言(編著)「幼稚園教育要領・保育所保育指針・幼保連携型保育教育要領の成立と変遷」(萌文書林)ISBN: 978-4-89347-254-0					
3. 厚生労働省(編著)「保育所保育指針解説(平成30年版)」(フレーベル館)ISBN: 978-4-577-81448-2					
4. 文部科学省(編著)「幼稚園教育要領解説(平成30年版)」(フレーベル館)ISBN: 978-4-577-81447-5					
5. 内閣府等(編著)「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説(平成30年版)」(フレーベル館)ISBN: 978-4-577-81373-7					
※講上の留意点(担当者からのメッセージ): 保育の基本を学ぶ科目です。他の教科の学びとつながりながら、学びを深めていってください。					

幼児教育学科

科目名: 教育原理			担当教員 氏名: 宮越 浩子			
単 位	開講時期(年次・期)		科目の区分	授業方法	(卒業要件) 必修/選択	備考
2	1年次	前期	専門科目	講義	必修	保育士資格指定科目(必修) 幼稚園教諭二種免許状科目(必修) 社会福祉主事任用資格
実務経験を用いてどのような授業を行っているか:		学校現場における教員経験を踏まえて、教育の基本概念、教育の理念、今日求められる幼児教育・保育の在り方や保育者像等について解説する。また、保育者の社会的責任・役割を理解し、求められる保育者像に向かう「私」づくりを継続するための視点を得られるようなアクティブ・ラーニング型授業を行う。				
授業科目の学習教育目標の概要:					キーワード	
教育の基本概念とは何か、また、教育の理念にはどのようなものがあり、教育の歴史や思想において、それらがどのように現れてきたかについて学ぶとともに、これまでの教育及び学校の営みがどのように捉えられ、変遷してきたのかを理解する。					教育の意義と目的、教育・保育の歴史、環境、人間形成、教育課程・保育課程、遊び	
授業における学修の到達目標						
学習教育目標 (卒業認定・学位授与の方針との関連)			自己形成を進める行動目標 (福短マトリックスで示される番号)		1. 2. 3. 4. 6. 7.	
A 知識・理解力			教育の目的、国内外の教育の理論・歴史・教育制度などを理解する。			
C 論理的思考力			「環境を通して行う」幼児教育、「遊びを通しての指導」、今日の教育について、授業で学び調べたことをもとに教育の意味や在り方を論理的に考える。			
D 問題解決力			今日求められる幼児教育・保育の在り方や保育者像について授業で学び調べたことをもとに、自分なりに考察する。			
E 自己管理能力			保育者の社会的責任・役割を理解し、求められる保育者像に向かう「私」づくりを継続する。			
成績評価の方法・基準: 以下の方法により評価し、学則および履修要項に従い、60点以上を単位認定とする						
テスト: 50 %		レポート: 30 %		発表: %		実技試験: %
その他: 20 %						
特記事項: ・上記の「テスト:50%」は中間・期末・定期的なミニテスト、「レポート:30%」は授業後のレポート、「その他:20%」は授業への参加姿勢・態度、課題の提出状況などを評価する。 ・本科目ではアクティブ・ラーニングの一環として、グループワークやディスカッションの機会を積極的に取り入れる。 ・課題の提示ならびに提出には、主にGoogleクラスルームを使用する。						
アクティブラーニング要素: 課題解決型学習 ディスカッション、ディベート <u>グループワーク</u> プレゼンテーション 実習、フィールドワーク						
テスト・レポート・発表・実技試験等の実施時期:第8回目、第16回目の授業、及び定期的に振り返りを実施する。						
課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法:テスト、レポート等は評価終了後返却し、その後の学び方の改善やさらに学びを深めるために活かすよう指導する。						
授 業 計 画				準備学習(予習・復習等)		
				学習内容	学習に必要な時間(分)	
①教育を実践する者になるために				【予習】教科書(教育を実践する者になるために)を読む。【復習】①の復習	【予習】60分 【復習】120分	
②教育学の諸概念、教育の本質と目標				【予習】教科書(教育の意義と目的)を読む。【復習】②の復習	【予習】60分 【復習】120分	
③子供、保育者、家庭との相互関係				【予習】教科書(子どもへの理解)を読む。【復習】③の復習	【予習】60分 【復習】120分	
④教育の歴史(Ⅰ)―家族及び社会による教育の歴史				【予習】教科書(教育の歴史 歴史と子ども観の変遷)を読む。【復習】④の復習	【予習】60分 【復習】120分	
⑤教育の歴史(Ⅱ)―近代教育制度の成立および展開				【予習】教科書(教育の歴史 学校教育の展開)を読む。【復習】⑤の復習	【予習】60分 【復習】120分	
⑥教育の歴史(Ⅲ)―幼児教育の展開、教育の制度				【予習】教科書(教育の歴史 幼児教育の展開)を読む。【復習】⑥の復習	【予習】60分 【復習】120分	
⑦教育の思想(Ⅰ)―家庭及び子供に関わる教育の思想				【予習】前時の配布資料(家庭及び子供に関わる教育の思想)を読む。【復習】⑦の復習	【予習】60分 【復習】120分	
⑧教育の思想(Ⅱ)―学校及び学習に関わる教育の思想				【予習】教科書の教育家の思想関連のページを読む。【復習】⑧の復習	【予習】60分 【復習】120分	
⑨教育の思想(Ⅲ)―教育家の思想				【予習】教科書の教育家の思想関連のページを読む。【復習】⑨の復習	【予習】60分 【復習】120分	
⑩教育課程・保育課程―保育のカリキュラム―				【予習】教科書(教育課程・保育課程)を読む。【復習】⑩の復習	【予習】60分 【復習】120分	
⑪遊びの指導・援助のあり方―保育方法―				【予習】教科書(遊びの指導・援助のあり方)を読む。【復習】⑪の復習	【予習】60分 【復習】120分	
⑫自己評価から第三者評価まで―保育の評価―				【予習】教科書(自己評価から第三者評価まで)を読む。【復習】⑫の復習	【予習】60分 【復習】120分	
⑬保育者の役割				【予習】教科書(保育者の役割)を読む。【復習】⑬の復習	【予習】60分 【復習】120分	
⑭今日の教育1―現代社会における教育課題を歴史的な視点から理解する				【予習】教科書(教育が抱える課題)を読む。【復習】⑭の復習	【予習】60分 【復習】120分	
⑮今日の教育2―幼児教育の課題と未来、保育者を目指すために				【予習】教科書(幼児教育の課題と未来、教え育てる「大人」になるためには)を読む。【復習】これまでの講義の振り返り	【予習】60分 【復習】120分	
⑯期末試験						
使用テキスト:①西本望編『シリーズ知のゆりかご いまがわかる教育原理』(株)みらい ISBN978-4-86015-450-9 ②民秋言編『幼稚園教育要領・保育所保育指針・幼保連携型認定こども園教育保育要領の成立と変遷』(株)萌文書林 ISBN978-4-89347-254-0				その他参考文献など:		
受講上の留意点(担当者からのメッセージ): 毎時間の配布資料・ノートはファイリングして保管し、授業時に持参すること。						

幼児教育学科

科目名: 子ども家庭福祉				担当教員 氏名: 清水 剛志		
単 位	開講時期(年次・期)		科目の区分	授業方法	(卒業要件) 必修/選択	備考
2	1年次	前期	専門科目	講義	必修	保育士資格指定科目(必修)
実務経験を用いてどのような授業を行っているか:		スクールソーシャルワーカーとして子どもを取り巻く環境に働きかける支援の実践を紹介する。				
授業科目の学修教育目標の概要:					キーワード	
少子・高齢化社会における児童家庭福祉の意義を考え、児童家庭福祉を支援する社会福祉制度・施策の役割についてその現状と課題ならびに動向と展望について、系統立てて理解する。					子どもの権利擁護 家庭支援 社会情勢 生活保障	
授業における学修の到達目標						
学修教育目標 (卒業認定・学位授与の方針との関連)						
A 知識・理解力			現代社会の中での子ども家庭福祉の制度が果たす役割について理解を深める。			
B 専門的技術			制度の仕組みや相互の関係性について考察する。			
C 論理的思考力			受講内容について、その課題を客観的に整理し、まとめる力をつける。			
D 問題解決力			福祉従事者を目指すものとしての児童理解を深め、倫理観を高める。			
H コミュニケーション力			授業を通して、他の者との意見交換や協調する力を培う。			
成績評価の方法・基準: 以下の方法により評価し、学則および履修要項に従い、60点以上を単位認定とする						
テスト: 60 %		レポート: 20 %		発表: %	実技試験: %	その他: 20 %
特記事項: 評価のその他は、受講態度や出席状況を勘案する。						
アクティブラーニング要素: 課題解決型学修 ディスカッション、ディベート グループワーク プレゼンテーション 実習、フィールドワーク						
テスト・レポート・発表・実技試験等の実施時期: 別に定めた日時で実施する。						
課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法: 講義内による講評						
授 業 計 画				準備学修(予習・復習等)		
				学修内容	学修に必要な時間(分)	
①オリエンテーション、子ども家庭福祉とは何か				【復習】振り返り課題をまとめる	【復習】30分	
②現代社会と子ども、子どもがいる家庭の変容				【復習】振り返り課題をまとめる	【復習】30分	
③子ども家庭福祉の理念、子ども家庭福祉の歴史				【復習】振り返り課題をまとめる	【復習】30分	
④わが国の子ども家庭福祉の展開				【復習】振り返り課題をまとめる	【復習】30分	
⑤諸外国の子ども家庭福祉の状況				【復習】振り返り課題をまとめる	【復習】30分	
⑥子ども家庭福祉の法律、制度				【復習】振り返り課題をまとめる	【復習】30分	
⑦事例検討						
⑧子ども家庭福祉の体制と機関				【復習】振り返り課題をまとめる	【復習】30分	
⑨少子化と地域子育て支援				【復習】振り返り課題をまとめる	【復習】30分	
⑩母子保健と子どもの健全育成				【復習】振り返り課題をまとめる	【復習】30分	
⑪子ども虐待・DV(ドメスティックバイオレンス)とその防止				【復習】振り返り課題をまとめる	【復習】30分	
⑫保育ニーズへの対応				【復習】振り返り課題をまとめる	【復習】30分	
⑬保育・教育・療育・保健・医療等の連携とネットワーク				【復習】振り返り課題をまとめる	【復習】30分	
⑭事例検討				【復習】振り返り課題をまとめる	【復習】30分	
⑮まとめ、子ども家庭福祉の今後の課題						
使用テキスト: 最新 保育士養成講座 改訂1版 第3巻 子ども家庭福祉 出版社:全国社会福祉協議会				その他参考文献など:		
受講上の留意点(担当者からのメッセージ):						

幼児教育学科

科目名: 保育の心理学			担当教員 氏名: 石津 孝治			
単 位	開講時期(年次・期)		科目の区分	授業方法	(卒業要件) 必修/選択	備考
2	1年次	前期	専門科目	講義	必修	保育士資格指定科目(必修)
実務経験を用いてどのような授業を行っているか:						
授業科目の学習教育目標の概要:						キーワード
保育実践に必要な心理学の知識を習得する。特に、子どもの発達にかかわる心理学の基礎的知識、子どもが人とかかわりの中で発達すること、等に重点を置く。また、生涯発達と初期経験の重要性についても学ぶ。						・発達 ・認知 ・社会性 ・生涯発達
授業における学修の到達目標						
学習教育目標 (卒業認定・学位授与の方針との関連)			自己形成を進める行動目標 (福短マトリックスで示される番号)			
			5. 6. 7. 9.			
A 知識・理解力			各側面から乳幼児の発達を理解できる。			
C 論理的思考力			発達を多面的に捉えることができる。			
G 倫理観			子どもが育つための大人(保育者)の重要な役割と責任について理解できる。			
成績評価の方法・基準: 以下の方法により評価し、学則および履修要項に従い、60点以上を単位認定とする						
テスト: 100 %	レポート: %	発表: %	実技試験: %	その他: %		
特記事項: テストについては、1回目が30%、2回目が70%。						
アクティブラーニング要素: 課題解決型学習 <u>ディスカッション</u> 、 <u>ダイアログ</u> グループワーク プレゼンテーション 実習、フィールドワーク						
テスト・レポート・発表・実技試験等の実施時期: 別に定めた日時に実施する。						
課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法: テストを採点し返却する。						
授 業 計 画				準備学習(予習・復習等)		
				学習内容	学習に必要な時間(分)	
①保育と心理学について。乳児期の知覚1(新生児や乳児期の視覚機能について学ぶ)				復習。ノートを整理する。疑問点をリスト化し、調べる。	復習20分	
②乳児期の知覚2(乳児期の聴覚について学ぶ)				復習。ノートを整理する。疑問点をリスト化し、調べる。	復習20分	
③乳児期の認知について学ぶ				復習。ノートを整理する。疑問点をリスト化し、調べる。	復習20分	
④愛着の発達(愛着の発達や大人との関係性について学ぶ)				復習。ノートを整理する。疑問点をリスト化し、調べる。	復習20分	
⑤乳児の対人関係や指差しの意味などについて学ぶ				復習。ノートを整理する。疑問点をリスト化し、調べる。	復習20分	
⑥乳児の個人差(「気質」の概念から個人差について学ぶ)				復習。ノートを整理する。疑問点をリスト化し、調べる。	復習20分	
⑦前半のまとめ				予習。①～⑥までの内容の理解を確認する。	予習30分	
⑧かかわりの中での発達(1)(共感と力動感)				復習。ノートを整理する。疑問点をリスト化し、調べる。	復習20分	
⑨かかわりの中での発達(2)(応答関係と子どもを認めること)				復習。ノートを整理する。疑問点をリスト化し、調べる。	復習20分	
⑩幼児期の遊び(1)(遊びのおもしろさと発達について学ぶ)				復習。ノートを整理する。疑問点をリスト化し、調べる。	復習20分	
④幼児期の遊び(2)(遊びの中の学びについて)				復習。ノートを整理する。疑問点をリスト化し、調べる。	復習20分	
⑫幼児期の遊び(3)(遊びの援助について学ぶ)				復習。ノートを整理する。疑問点をリスト化し、調べる。	復習20分	
⑬乳幼児期の学びに関わる理論について学ぶ				復習。ノートを整理する。疑問点をリスト化し、調べる。	復習20分	
⑭乳幼児の学びの過程や環境について学ぶ				復習。ノートを整理する。疑問点をリスト化し、調べる。	復習20分	
⑮まとめ				講義全体の理解を確認する。	予習30分	
使用テキスト:				その他参考文献など: 「子どもとかかわる人のための心理学」沼山博他編(萌文書林)		
受講上の留意点(担当者からのメッセージ):						

幼児教育学科

科目名: 子どもの保健				担当教員 氏名: 土居 和代		
単 位	開講時期(年次・期)		科目の区分	授業方法	(卒業要件) 必修/選択	備考
2	1年次	前期	専門科目	講義	6単位 選択必修	保育士資格指定科目(必修)
実務経験を用いてどのような授業を行っているか:		助産師として臨床の実務経験、事例をもとに講義				
授業科目の学修教育目標の概要:					キーワード	
「養護」の視点を踏まえた実践力の向上を目指し、子どもの発達、学びの過程や特性に関する内容を体系的に理解する。また、子どもと家庭に関して包括的に理解し、保育における保健的対応に関する基礎的事項を習得する。					<ul style="list-style-type: none"> ・子どもの健康 ・子どもの発達 ・健康支援 	
授業における学修の到達目標						
学修教育目標 (卒業認定・学位授与の方針との関連)						
A 知識・理解力			子どもの心身の健康増進を図る保健活動の意義を理解する。			
C 論理的思考力			子どもの身体的な発育・発達と保健について理解する。			
B 専門的技術			子どもの心身の健康状態とその把握の方法について理解する。			
B 専門的技術 D 問題解決力			子どもの疾病とその予防法及び他職種間の連携・協働の下での適切な対応について理解する。			
成績評価の方法・基準: 以下の方法により評価し、学則および履修要項に従い、60点以上を単位認定とする						
テスト: 60 %	レポート: 20 %	発表: 10 %	実技試験: %	その他: 10 %		
特記事項: 課題やケーススタディをグループワークで行い、他の学生の前でプレゼンテーションを実施する。						
アクティブラーニング要素: 課題解決型学修 ディスカッション、ディベート <u>グループワーク</u> プレゼンテーション 実習、フィールドワーク						
テスト・レポート・発表・実技試験等の実施時期: グループワークを実施し、評価する。適宜、小テストを行う。						
課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法: テスト実施時、内容解説と答え合わせを行う。						
授 業 計 画				準備学修(予習・復習等)		
				学修内容	学修に必要な時間(分)	
①子どもの健康と安全 子どもの発育・発達				【予習】テキスト①を読む 【復習】①の学びの振り返り	【予習】120分 【復習】120分	
②子どもの発育・発達と保健				【予習】テキスト②を読む 【復習】②の学びの振り返り	【予習】120分 【復習】120分	
③現代社会における子どもの健康に関する現状と課題、母子保健対策				【予習】テキスト③を読む 【復習】③の学びの振り返り	【予習】120分 【復習】120分	
④地域における保健活動と子どもの虐待防止 ケーススタディ グループワーク				【予習】③の学びの振り返り	【予習】120分 【復習】120分	
⑤ケーススタディの発表 児童虐待の予防				【予習】担当者別発表準備	【予習】120分 【復習】120分	
⑥子どもの健康と子育てに必要な養護・しつけ				【予習】テキスト⑥を読む 【復習】⑥の学びの振り返り	【予習】120分 【復習】120分	
⑦子どもの健康状態の観察と体調不良時の把握				【予習】テキスト⑦を読む 【復習】⑦の学びの振り返り	【予習】120分 【復習】120分	
⑧中間テスト・保護者との情報共有と関連機関との連携				【予習】テキスト⑧を読む 【復習】⑧の学びの振り返り	【予習】120分 【復習】120分	
⑨子どもの病気 ～感染症及び急性疾患による緊急時の対応～				【予習】テキスト⑨を読む 【復習】⑨の学びの振り返り	【予習】120分 【復習】120分	
⑩子どもの病気 ～先天性疾患とアレルギーについて～				【予習】テキスト⑩を読む 【復習】⑩の学びの振り返り	【予習】120分 【復習】120分	
④グループワーク(子どもの事故とその予防)				【予習】⑩の学びの振り返り	【予習】120分 【復習】120分	
⑫グループワークの発表				【予習】担当者別発表準備	【予習】120分 【復習】120分	
⑬子どもの病気 ～慢性疾患の特徴と適切な対応～				【予習】テキスト⑬を読む 【復習】⑬の学びの振り返り	【予習】120分 【復習】120分	
⑭保護者との情報共有と家族支援				【予習】テキスト⑭を読む 【復習】⑭の学びの振り返り	【予習】120分 【復習】120分	
⑮期末テスト 医療的ケアが必要な子どもと家族の関わり方				【予習】テキスト①～⑭を読む 【復習】①～⑭の学びの振り返り	【予習】120分 【復習】120分	
使用テキスト: 『子どもの保健テキスト』/小林美由紀:編著 森脇浩一:編集協力/診断と治療者/ISBN978-4-7878-2330-4				その他参考文献など:		
受講上の留意点(担当者からのメッセージ): 授業では子どもの保健のほか、親や保育者自身の健康についても関心をもってもらいたい。また、グループワークを取り入れ、他の人の意見を聞き、話し合うことにより課題を取りまとめる手法や他者に分かりやすく伝える方法を学んでほしい。						

幼児教育学科

科目名: 幼児理解			担当教員 氏名: 堀江 修						
単 位	開講時期(年次・期)		科目の区分	授業方法	(卒業要件) 必修/選択	備考			
1	1年次	前期	専門科目	講義	選択	保育士資格指定科目(選択) 幼稚園教諭二種免許状科目(必修)			
実務経験を用いてどのような授業を行っているか:		保育エピソードや映像等により、具体的な子どもの事例に基づき授業を行う。							
授業科目の学習教育目標の概要:					キーワード				
幼児理解は、幼児教育のあらゆる営みの基本となるものである。幼児一人一人の特性に応じ、発達課題に即した指導を行うために、幼児の発達観や共感的理解について具体的な事例を通して学び、実践力を養う。					幼児理解 保育の観察と記録 個と集団 家庭支援				
授業における学修の到達目標									
学習教育目標 (卒業認定・学位授与の方針との関連)									
A 知識・理解力			幼児理解の意義を理解している。						
A 知識・理解力			幼児理解から発達や学びを捉える原理を理解している。						
D 問題解決力			幼児理解を深めるための教師の基礎的な態度を理解している。						
D 問題解決力			幼児理解の方法を具体的に理解している。						
成績評価の方法・基準: 以下の方法により評価し、学則および履修要項に従い、60点以上を単位認定とする									
テスト:	%	レポート:	50 %	発表:	30 %	実技試験:	%	その他:	20 %
特記事項: 自分の幼児期の想起とそれに基づくディスカッションや発表等に対する姿勢も評価する、									
アクティブラーニング要素: 課題解決型学習 ディスカッション、ディベート グループワーク プレゼンテーション 実習、フィールドワーク									
テスト・レポート・発表・実技試験等の実施時期: ・適宜小テスト、課題レポートを実施する。最終試験は、別に定めた日時に実施する。									
課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法: ・試験については採点し返却する。レポートについては、チェック後返却する。									
授 業 計 画				準備学習(予習・復習等)					
				学習内容	学習に必要な時間(分)				
①幼児理解の意義				【予習】授業の課題について考える 【復習】レジュメに沿って授業内容を整理しまとめる	【予習】100分 【復習】120分				
②主体性を育てる幼児理解Ⅰ				【予習】授業の課題について考える 【復習】レジュメに沿って授業内容を整理しまとめる	【予習】100分 【復習】120分				
③主体性を育てる幼児理解Ⅱ				【予習】授業の課題について考える 【復習】レジュメに沿って授業内容を整理しまとめる	【予習】100分 【復習】120分				
④幼児理解における保育者の基本的な姿勢Ⅰ				【予習】授業の課題について考える 【復習】レジュメに沿って授業内容を整理しまとめる	【予習】100分 【復習】120分				
⑤幼児理解における保育者の基本的な姿勢Ⅱ				【予習】授業の課題について考える 【復習】レジュメに沿って授業内容を整理しまとめる	【予習】100分 【復習】120分				
⑥保育における理解と援助 一個に応じた対応ー				【予習】授業の課題について考える 【復習】レジュメに沿って授業内容を整理しまとめる	【予習】100分 【復習】120分				
⑦保育における理解と援助 ートラブル対応ー				【予習】授業の課題について考える 【復習】レジュメに沿って授業内容を整理しまとめる	【予習】100分 【復習】120分				
⑧「個」への肯定的な理解と温かい集団づくり、まとめ				【予習】「幼児理解」のこれまでの学習を復習する	【予習】220分				
使用テキスト:なし(自作プリント使用)				その他参考文献など: 文部科学省『幼児理解に基づいた評価』チャイルド本社					
受講上の留意点(担当者からのメッセージ): 幼児理解は保育の基盤となるものです。多様な視点から、また幼児に対して共感的に理解できるよう学んでいきましょう。									

幼児教育学科

科目名： 保育内容(健康)				担当教員 氏名： 泉 敏郎					
単 位	開講時期(年次・期)		科目の区分	授業方法	(卒業要件) 必修/選択	備考			
1	1年次	前期	専門科目	演習	3単位 選択必修	保育士資格指定科目(必修)			
実務経験を用いてどのよ健康運動指導士として、健康づくりに関連する普及活動を行ってきたことから、個々の現在の健康・体力に うな授業を行っているか： 関する状況を把握したうえで生涯を通じてスポーツ実践を継続するための基礎的な知識を理解する。									
授業科目の学習教育目標の概要：						キーワード			
自らの健康状態について把握と生涯を通じた健康づくりの重要性の知識に関する理解を 深めた上で、年齢層(特に幼児期)に必要な健康づくりの取り組みについて、知識と技術 を習得する。						・スキャモンの発育曲線 ・健康づくり ・幼児期の健康づくり			
授業における学修の到達目標									
学習教育目標 (卒業認定・学位授与の方針との関連)			自己形成を進める行動目標 (福短マトリックスで示される番号)						
			1. 2. 5. 6. 7. 8. 9. 10						
A 知識・理解力			生涯を通じた健康づくりのための取り組みや指針などを説明できる						
B 専門的技術			幼児期の発育・発達特性について、スキャモンのグラフを用いて説明ができる						
E 自己管理能力			自分の健康状態を把握し、健康増進のための健康づくりについて実践できる						
成績評価の方法・基準： 以下の方法により評価し、学則および履修要項に従い、60点以上を単位認定とする									
テスト：	%	レポート：	80 %	発表：	20 %	実技試験：	%	その他：	%
特記事項：									
アクティブラーニング要素： 課題解決型学習 ディスカッション、ディベート グループワーク プレゼンテーション 実習、フィールドワーク									
テスト・レポート・発表・実技試験等の実施時期：8回、14回目に課題レポートを課す。									
課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法：レポート用紙返却時にコメントにてフィードバック									
授 業 計 画				準備学習(予習・復習等)					
				学習内容	学習に必要な 時間(分)				
①我が国の健康づくり施策について				事後：国の健康づくりについて理解する	30分				
②健康づくりの3原則と実践方法について				事後：健康づくりの3原則の実践	30分				
③年代に応じた健康づくり(青年期)				事後：自分の健康状態を理解する	30分				
④年代に応じた健康づくり(高齢期)				事後：高齢者の健康について理解する	30分				
⑤年代に応じた健康づくり(乳・幼児期)				事後：幼児期の健康について理解する	30分				
⑥基本的生活習慣について				事後：基本的生活習慣について理解する	30分				
⑦安全環境と安全教育				事後：安全について理解する	30分				
⑧中間振り返り 課題レポート				事後：課題レポートの確認	30分				
⑨幼児期の疾病と応急処置				事後：応急処置方法を理解する	30分				
⑩活動時のリスクマネジメントについて				事後：リスクマネジメントを理解する	30分				
④スキャモンの発育曲線について				事後：スキャモンの発育曲線を理解する	30分				
⑫幼児期に必要な身体活動について				事後：身体活動量について理解する	30分				
⑬健康づくりの指導計画と指導方法について				事後：健康づくりの指導方法を理解する	30分				
⑭幼児期の健康づくりのための活動を考える 課題レポート				事後：これまでの内容をまとめる	30分				
⑮幼児期の健康づくりのための活動を考える 振り返り				事後：これまでの内容をまとめる	30分				
使用テキスト： 特になし。適宜資料を配布します				その他参考文献など：保育内容(健康)光生館					
受講上の留意点(担当者からのメッセージ)：									

幼児教育学科

科目名: 保育内容(言葉)				担当教員 氏名: 若山 育代		
単 位	開講時期(年次・期)		科目の区分	授業方法	(卒業要件) 必修/選択	備考
1	1年次	前期	専門科目	演習	3単位 選択必修	保育士資格指定科目(必修)
実務経験を用いてどのような授業を行っているか:						
授業科目の学修教育目標の概要:						キーワード
子どもの発達を「言葉」の領域の観点からとらえ、それに基づいて保育内容について具体的に学ぶ。						言葉 発達 援助
授業における学修の到達目標						
学修教育目標 (卒業認定・学位授与の方針との関連)						
A 知識・理解力			乳幼児の発達を言葉の領域からとらえて、乳幼児期の発達に即した言葉を育てる援助を提案する。			
B 専門的技術			領域「言葉」の保育内容を総合的に展開していくための知識・技術・判断を習得する。			
成績評価の方法・基準: 以下の方法により評価し、学則および履修要項に従い、60点以上を単位認定とする						
テスト: 25 %		レポート: %		発表: 10 %		実技試験: %
その他: 65 %						
特記事項: パネルシアター、エプロンシアター、ペープサート、手袋シアター、カードシアター、ハンカチシアター、ロープシアター、靴下シアターなど、幼児教育におけるお話教材の中から好きなものを2つ選んで作成し、発表することが含まれます。						
アクティブラーニング要素: 課題解決型学修 ディスカッション、ディベート グループワーク プレゼンテーション 実習、フィールドワーク						
テスト・レポート・発表・実技試験等の実施時期: 授業時間における【A知識・理解力】は15回目に行うテストで評価します(25点)。授業時間外予復習における【A知識・理解力】は毎回の授業に関するノート作成(その他65点内)、【B 専門的技術】はお話教材作りと発表(10点)、お話教材の貸借(その他65点内)で評価します。加えて受講生の任意の課題として、「発展的事前・事後学修課題とその評価」(その他65点内)を設定します。						
課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法: 成績評価後に返却します。						
授 業 計 画				準備学修(予習・復習等)		
				学修内容	学習時間(分)	
①オリエンテーションと領域「言葉」の意義付け、ねらい、内容、内容の取扱い				授業に関するノート作成及びお話教材作り、お話教材の貸借、他任意課題		
②乳児期の子どもの保育に関するねらい及び内容				授業に関するノート作成及びお話教材作り、お話教材の貸借、他任意課題		
③満1歳以上満3歳未満の園児の保育に関するねらい及び内容および満3歳以上の園児の教育及び保育に関するねらい及び内容				授業に関するノート作成及びお話教材作り、お話教材の貸借、他任意課題		
④自分の気持ちを言葉で表現する楽しさを味わう保育				授業に関するノート作成及びお話教材作り、お話教材の貸借、他任意課題		
⑤人の言葉や話などをよく聞く				授業に関するノート作成及びお話教材作り、お話教材の貸借、他任意課題		
⑥伝え合う喜びを味わう				授業に関するノート作成及びお話教材作り、お話教材の貸借、他任意課題		
⑦日常生活に必要な言葉が分かるようになるとともに、絵本や物語などに親しむ				授業に関するノート作成及びお話教材作り、お話教材の貸借、他任意課題		
⑧言葉に対する感覚を豊かにする				授業に関するノート作成及びお話教材作り、お話教材の貸借、他任意課題		
⑨体の動きや表情、発声等により、保育教諭等と気持ちを通わせようとする				授業に関するノート作成及びお話教材作り、お話教材の貸借、他任意課題		
⑩絵本や物語等に親しむとともに、言葉のやり取りを通じて身近な人と気持ちを通わせる				授業に関するノート作成及びお話教材作り、お話教材の貸借、他任意課題		
⑪日常生活の中で、文字などで伝える楽しさを味わう				授業に関するノート作成及びお話教材作り、お話教材の貸借、他任意課題		
⑫絵本や物語などで、その内容と自分の経験とを結び付けたり、想像を巡らせたりする				授業に関するノート作成及びお話教材作り、お話教材の貸借、他任意課題		
⑬生活の中で言葉の楽しさや美しさに気付く				授業に関するノート作成及びお話教材作り、お話教材の貸借、他任意課題		
⑭現代的課題と領域「言葉」				授業に関するノート作成及びお話教材作り、お話教材の貸借、他任意課題		
⑮幼児が言葉を紡ぐ環境とテスト				授業に関するノート作成及びお話教材作り、お話教材の貸借、他任意課題		
使用テキスト: 平成29年告示幼稚園教育要領解説(9784577814475)、平成29年告示保育所保育指針解説(9784577814482)、平成29年告示幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説(9784577814499)				その他参考文献など:		
受講上の留意点(担当者からのメッセージ): 初回の講義で評価および準備学修(予習・復習)等についての詳細資料を配布します。						

幼児教育学科

科目名: 保育内容(身体表現)の指導法			担当教員 氏名: 澤 聡美						
単 位	開講時期(年次・期)		科目の区分	授業方法	(卒業要件) 必修/選択	備考			
1	1年次	前期	専門科目	演習	選択	保育士資格指定科目(必修)			
実務経験を用いてどのような授業を行っているか:			保育園、子ども園、幼稚園及び運動教室における子供の運動指導の実務経験を活かして、子供の実践の様子を踏まえて教授する。						
授業科目の学修教育目標の概要:					キーワード				
子どもの感性と輝きを引き出すためには、保育者自身が、わくわくする体験を通して、感性豊かに表現できる空間・時間・仲間と経験が大切である。実践と省察を繰り返すことで、乳幼児の主体的な身体表現を展開するためには、どのように関わり、支援すればよいのかを考える。					五感(豊かな感性)、健康、表現、人との関わり				
授業における学修の到達目標									
学修教育目標 (卒業認定・学位授与の方針との関連)									
B 専門的技術			子どもの感性と輝きを引き出す表現方法や支援方法を理解し、工夫できる。						
E 自己管理能力			自らの生活習慣、これまでの運動との関わりについて振り返り、自らの健康を管理できる力を身につける。						
F チームワーク・リーダーシップ			チームで役割を分担して活動し、チームに参画する力を身につける。						
H コミュニケーション力			運動を通して他者と関わり、他者の意見を聴く力、理解する力、コミュニケーションについて実践的に学ぶ。						
D 問題解決力			運動指導中に起こる問題について、考え、チームで解決方法を検討し、様々な解決方法を考え、実践できる。						
成績評価の方法・基準: 以下の方法により評価し、学則および履修要項に従い、60点以上を単位認定とする									
テスト:	%	レポート:	60 %	発表:	30 %	実技試験:	%	その他:	10 %
特記事項: その他はチームでの発表や活動について評価する。									
アクティブラーニング要素:									
課題解決型学修 ディスカッション、ディベート <u>グループワーク</u> <u>プレゼンテーション</u> 実習、フィールドワーク									
テスト・レポート・発表・実技試験等の実施時期: 発表・実技試験等の実施時期: 毎回、授業の終わりに気づき・学びシートを提出し、学びを蓄積し、11回目と15回目に振り返りのレポートを作成する。									
課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法: コメントを書いて返却する。									
授 業 計 画				準備学修(予習・復習等)					
				学修内容	学修に必要な時間(分)				
①オリエンテーション				[予習]これまでの運動に対する自分の関わりについて振り返る [復習]身体表現の目標を決める			60分		
②幼児の表現を促す、感性を豊かにするリズム・表現				[復習]「いないいないばあ」を参考に、乳幼児が好きな音楽(音)を見つける			60分		
③イメージを豊かにするための、素材(新聞紙)の特性を生かした表現と運動				[復習]身近な素材を使った親子での遊びを調べる			60分		
④イメージを豊かにするための、素材(布)の特性を生かした表現と運動				[復習]身近な素材を使った親子での遊びを考える			60分		
⑤イメージを豊かにするための、素材(お花紙)の特性を生かした表現と運動				[復習]身近な素材を使った親子での遊びを考える			60分		
⑥イメージを豊かにするための、動物の特性を生かした表現と運動				[予習]ファミリーパークの動物を調べる			120分		
⑦6回目の動物の模倣から、4つの運動スキル(移動系・平衡系・操作系・非移動系)を養う表現・運動の創作				[復習]動物の絵本を見つけてくる			60分		
⑧動物の模倣から作品創作				[復習]動物の動きを調べる			60分		
⑨8回目に創作した表現を、曲に合わせて、ひと流れの作品に仕上げる。				[復習]スマホに録画した映像を見て、空間、リズム、体の状態など工夫できることはないか検討する			60分		
⑩チームで創作した表現の発表				[復習]創作過程でのグループワークについて省察する			60分		
④ICTを活用し、自他の体験した表現方法や表現活動の振り返り、表現の面白さや可能性の追求				[予習]子どもの体力について調べる			60分		
⑫体力を高めるための、身体表現(リズム)				[復習]自宅でも継続できる表現遊びを考える			60分		
⑬これまでの基礎的な知識・技能を生かし、体力を高めるための身体表現(リズム)の創作				[復習]自宅でも継続できる表現遊びを考える			60分		
⑭体力を高めるための身体表現(リズム)の発表準備				[予習]スマホに録画した映像を見て、空間、リズム、体の状態など工夫できることはないか検討する			60分		
⑮発表と総評				[復習]実践を通じた学び、グループワークについて省察する			60分		
使用テキスト: 必要に応じて配布する				その他参考文献など:					
受講上の留意点(担当者からのメッセージ): 運動にふさわしい服装で、装飾品は怪我につながるのではありません。朝食を取ってから来ること。									

幼児教育学科

科目名: 乳児保育 I			担当教員 氏名: 長谷 尚子			
単 位	開講時期(年次・期)		科目の区分	授業方法	(卒業要件) 必修/選択	備考
2	1年次	前期	専門科目	講義	選択	保育士資格指定科目(必修)
実務経験を用いてどのような授業を行っているか:		保育士としての実務経験を生かして、乳児保育の実際や援助、さらには社会的状況や求められる態度等を含めた授業を講義を中心に行う。				
授業科目の学修教育目標の概要:						キーワード
1. 乳児保育の意義・目的と歴史の変遷及び役割等について理解する。 2. 保育所、乳児院等多様な保育の場における乳児保育の現状と課題について理解する。 3. 3歳未満児の発育・発達を踏まえた保育の内容と運営体制について理解する。 4. 乳児保育における職員間の連携・協働及び保護者や地域の関係機関との連携について理解する。						養護・教育・子育て支援・環境
授業における学修の到達目標						
学修教育目標 (卒業認定・学位授与の方針との関連)						
A 知識・理解力			乳児保育における新制度や法改正、現状と課題についての知識を身につける。			
B 専門的技術			乳児保育に必要な専門的知識について学ぶ。			
F チームワーク・リーダーシップ			他者と信頼関係を築き、目標実現のため協力し共に育ちあうことができる。			
G 倫理観			保育士として求められる価値と倫理に従って行動できる。			
H コミュニケーション力			言語や身体を用いて自己・他者の理解を深めるコミュニケーションができる。			
成績評価の方法・基準: 以下の方法により評価し、学則および履修要項に従い、60点以上を単位認定とする						
テスト: 60 %		レポート: 30 %		発表: %	実技試験: %	その他: 10 %
特記事項: 「テスト: 60%」は中間・期末で、「レポート: 30%」は授業後のレポート・小テスト、「その他: 10%」は、授業時の参加姿勢・態度を評価する。						
アクティブラーニング要素: 課題解決型学修 ディスカッション、ディベート <u>グループワーク</u> プレゼンテーション 実習、フィールドワーク						
テスト・レポート・発表・実技試験等の実施時期: 適宜小テストを行う。最終試験は、別に定めた日時に実施する。						
課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法: 評価終了後返却し、その後の学びに生かせるよう指導する。						
授 業 計 画				準備学修(予習・復習等)		
				学修内容	学修に必要な時間(分)	
①オリエンテーション(今後の授業に対する心構えと見通し) 乳児保育の意義・目的と歴史の変遷				【予習】教科書を読む 【復習】①の復習	【予習】30分 【復習】30分	
②乳児保育および子育て家庭に対する支援をめぐる社会的状況と課題				【予習】教科書を読む 【復習】②の復習	【予習】30分 【復習】30分	
③保育所における乳児保育				【予習】教科書を読む 【復習】③の復習	【予習】30分 【復習】30分	
④保育所以外の児童福祉施設(乳児院等)における乳児保育				【予習】教科書を読む 【復習】④の復習	【予習】30分 【復習】30分	
⑤家庭的保育・小規模保育等における乳児保育				【予習】教科書を読む 【復習】⑤の復習	【予習】30分 【復習】30分	
⑥3歳未満児とその家庭を取り巻く環境と子育て支援の場				【予習】教科書を読む 【復習】⑥の復習	【予習】30分 【復習】30分	
⑦3歳未満児の生活と環境				【予習】教科書を読む 【復習】⑦の復習	【予習】30分 【復習】30分	
⑧3歳未満児の遊びと環境				【予習】教科書を読む 【復習】⑧の復習	【予習】30分 【復習】30分	
⑨3歳以上児の保育に移行する時期の保育				【予習】教科書を読む 【復習】⑨の復習	【予習】30分 【復習】30分	
⑩3歳未満児の発育・発達をふまえた保育者による援助やかかわり				【予習】教科書を読む 【復習】⑩の復習	【予習】30分 【復習】30分	
④3歳未満児の発育・発達をふまえた保育における配慮				【予習】教科書を読む 【復習】④の復習	【予習】60分 【復習】60分	
⑫乳児保育における計画・記録・評価とその意義				【予習】教科書を読む 【復習】⑫の復習	【予習】30分 【復習】30分	
⑬職員間の連携・協働				【予習】教科書を読む 【復習】⑬の復習	【予習】30分 【復習】30分	
⑭保護者との連携・協働				【予習】教科書を読む 【復習】⑭の復習	【予習】30分 【復習】30分	
⑮自治体や地域の関係機関等との連携・協働・まとめ				【予習】乳児保育 I 全体の復習	【予習】60分	
使用テキスト: ①乳児保育 I・II <中央法規> 児童育成協会 978-4-8058-5795-3 ②保育所保育指針解説 <厚生労働省 編> 978-4-577-81448-2				その他参考文献など: 授業の中で適宜紹介する。 プリントなどの資料も適宜配布する。		
受講上の留意点(担当者からのメッセージ): 必要に応じて講義の後、小テストや感想をレポートすることを課題とする。幼児教育に関連した報道に関心を持ち、現状や課題について常に意識を持ってほしい。						

幼児教育学科

科目名: 幼児と音楽表現 I				担当教員 氏名: 高橋、荒木、水上、林、佐々木、森田		
単 位	開講時期(年次・期)		科目の区分	授業方法	(卒業要件) 必修/選択	備考
1	1年次	前期	専門科目	演習	必修	保育士資格指定科目(選択) 幼稚園教諭二種免許状科目(必修)
実務経験を用いてどのような授業を行っているか:			幼稚園教諭ならびに高等学校教諭としての実務経験を活かして、教育現場における音楽活動の具体的な事例を示すことで、音楽の知識及び技能の習得に向けて、より具体的なイメージを持つことができるよう授業を行う。			
授業科目の学修教育目標の概要:					キーワード	
音楽の基礎的な理論を学び、確かな読譜力と表現法を習得する。またピアノ、声楽の個別での実技指導によって演奏力、歌唱力を身につける。					声楽、ピアノ、音楽理論、読譜力、表現力	
授業における学修の到達目標						
学修教育目標 (卒業認定・学位授与の方針との関連)						
A 知識・理解力			音楽の基礎的な理論を学び、読譜力を身につける。			
B 専門的技術			ピアノ、声楽の個別での実技指導によって、演奏力、歌唱力を身につける。			
H コミュニケーション力			レッスンやアンサンブルを通して、自分の想いや考えを伝える力を身につける。			
成績評価の方法・基準: 以下の方法により評価し、学則および履修要項に従い、60点以上を単位認定とする						
テスト: 30 %	レポート: %	発表: %	実技試験: 50 %	その他: 20 %		
特記事項: 上記「その他」の20%は学習態度を評価する。						
アクティブラーニング要素:						
課題解決型学修 ディスカッション、ディベート グループワーク プレゼンテーション 実習、フィールドワーク						
テスト・レポート・発表・実技試験等の実施時期: ペーパーテストと弾き歌い実技試験は別に定めた日時に行う。						
課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法: 学生個々に評価を伝え、必要に応じて個別指導を行う。						
授 業 計 画					準備学修(予習・復習等)	
					学修内容	学修に必要な時間(分)
①【荒木、高橋】譜表と音名1 読譜とリズムトレーニング1 童謡1 【高橋、他】童謡弾き歌い1			【復習】自主練習		60分以上	
②【荒木、高橋】譜表と音名2 読譜とリズムトレーニング2 童謡2 【高橋、他】童謡弾き歌い2			【予習・復習】自主練習		60分以上	
③【荒木、高橋】音符と休符1 伴奏付け1 コードネーム1 童謡3 【高橋、他】童謡弾き歌い3			【予習・復習】自主練習		60分以上	
④【荒木、高橋】音符と休符2 伴奏付け2 コードネーム2 童謡4 【高橋、他】童謡弾き歌い4			【予習・復習】自主練習		60分以上	
⑤【荒木、高橋】リズムと拍子1 伴奏付け3 コードネーム3 童謡5 【高橋、他】童謡弾き歌い5			【予習・復習】自主練習		60分以上	
⑥【荒木、高橋】リズムと拍子2 伴奏付け4 コードネーム4 童謡6 【高橋、他】童謡弾き歌い6			【予習・復習】自主練習		60分以上	
⑦【荒木、高橋】リズムと拍子3 伴奏付け5 コードネーム5 童謡7 【高橋、他】童謡弾き歌い7			【予習・復習】自主練習		60分以上	
⑧【荒木、高橋】中間発表			【高橋、他】中間発表		【予習・復習】自主練習 60分以上	
⑨【荒木、高橋】音程 音楽指導のテクニック1 童謡8 【高橋、他】童謡弾き歌い8			【予習・復習】自主練習		60分以上	
⑩【荒木、高橋】音階1 音楽指導のテクニック2 童謡9 【高橋、他】童謡弾き歌い9			【予習・復習】自主練習		60分以上	
④【荒木、高橋】音階2 音楽指導のテクニック3 童謡10 【高橋、他】童謡弾き歌い10			【予習・復習】自主練習		60分以上	
⑫【荒木、高橋】ハ長調の音階 伴奏付け・メロディ1 童謡11 【高橋、他】童謡弾き歌い11			【予習・復習】自主練習		60分以上	
⑬【荒木、高橋】ハ長調の和音1 伴奏付け・メロディ2 童謡12 【高橋、他】童謡弾き歌い12			【予習・復習】自主練習		60分以上	
⑭【荒木、高橋】ハ長調の和音2 伴奏付け・メロディ3 童謡13 【高橋、他】童謡弾き歌い13			【予習・復習】自主練習		60分以上	
⑮【荒木、高橋】期末発表			【高橋、他】期末発表		【予習・復習】自主練習 60分以上	
使用テキスト: これ1冊で全てが分かる!ピアノ教本(カワイ出版社)・ポケット いっぱいのおうた(教育芸術社)・こどもの歌ベストテン(ドレミ楽譜出版社)・こども のおうた200(チャイルド本社)					その他参考文献など:	
受講上の留意点(担当者からのメッセージ): 幼児と音楽表現 I は通常の授業に加えて、弾き歌いの個人レッスンを受講することになります。授業での評価とピアノ、声楽実技の評価を 合わせて単位を取得することができます。						

幼児教育学科

科目名： 幼児と造形表現			担当教員 氏名： 岡野 宏宣						
単 位	開講時期(年次・期)		科目の区分	授業方法	(卒業要件) 必修/選択	備考			
1	1年次	後期	専門科目	演習	必修	保育士資格指定科目(選択)			
実務経験を用いてどのよ うな授業を行っているか： 臨床美術士、中・高美術教員の経験から実際に作品制作を行うことを軸とし、保育者として子どもの表現に共感する力 や、子どもと造形活動を行うための工夫する力を身に付けることを目的とした授業を行っている。									
授業科目の学習教育目標の概要：					キーワード				
幼児の造形表現の姿やその発達及びそれを促す要因、幼児の感性や創造性を豊かに する様々な表現遊びや環境構成などの専門的事項についての知識・技能・表現力を身 につける。					・造形表現活動 ・遊び ・伝統的技法				
授業における学修の到達目標									
学習教育目標 (卒業認定・学位授与の方針との関連)			自己形成を進める行動目標 (福短マトリックスで示される番号)		1. 2. 3. 5. 7. 8				
A 知識・理解力			造形表現の基礎知識を知り、幼児の表現や発達にあった造形表現活動について学ぶ						
B 専門的技術			造形表現の基礎技能や伝統的技法を学び、幼児の表現活動に展開させることができる						
D 問題解決力			表現することの楽しさを実感するとともに、楽しさを生み出す要因について考察すること ができる						
H コミュニケーション力			協力して制作することを通して、他者の表現を受け止め共感し、より豊かな表現につなげ ていくことができる						
成績評価の方法・基準： 以下の方法により評価し、学則および履修要項に従い、60点以上を単位認定とする									
テスト：	%	レポート：	70 %	発表：	30 %	実技試験：	%	その他：	%
特記事項：『レポート(70%)』は、授業・演習・制作のふりかえりレポートと作品ファイルである。『発表(30%)』は、作品制作である。									
アクティブラーニング要素： 課題解決型学習 ディスカッション、ディベート グループワーク プレゼンテーション 実習、フィールドワーク									
テスト・レポート・発表・実技試験等の実施時期：15回目の授業後、作品及び授業・演習・制作振り返りを印刷したものをファイリングして 郵送で提出すること									
課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法：授業・演習・制作ふりかえりレポートにコメントする									
授 業 計 画					準備学習(予習・復習等)				
					学習内容	学習に必要な 時間(分)			
①幼稚園・保育園・認定こども園における幼児の造形表現の位置づけ 演習：「両手で描く」					事後：授業・演習の振り返り	60			
②幼児の造形表現の意義 演習：「点と線で遊ぶ」 演習：制作作品のファイリングについて					事後：授業・演習の振り返り	60			
③領域「表現」のねらい 演習：モダンテクニック「スクラッチ」					事後：授業・演習の振り返り	60			
④人間の感性と表現の関係性 演習：モダンテクニック「パッチク」					事後：授業・演習の振り返り	60			
⑤幼児の発達と描画・造形活動の展開 演習：モダンテクニック「ドリッピング」					事後：授業・演習の振り返り	60			
⑥造形に発展する素材と表現方法の手がかりⅠ 演習：モダンテクニック「エアブラシ」					事後：授業・演習の振り返り	60			
⑦造形に発展する素材と表現方法の手がかりⅡ 演習：モダンテクニック「フロッターージュ」					事後：授業・演習の振り返り	60			
⑧さまざまな素材との出会いⅠ 制作1.「コラージュ」					事後：制作の続き・振り返り	120			
⑨制作2.「小麦粉粘土をつくろう」					事後：制作の続き・振り返り	120			
⑩制作3.「染め紙をしよう」					事後：制作の続き・振り返り	120			
⑪制作4.「染め紙を使って張り子でランプシェードをつくろう」①					事後：制作の続き・振り返り	120			
⑫制作5.「染め紙を使って張り子でランプシェードをつくろう」②					事後：制作の続き・振り返り	120			
⑬制作6. 自然素材を使って作ろう					事後：制作の続き・振り返り	120			
⑭制作7. 生活素材を使って作ろう					事後：制作の続き・振り返り	120			
⑮授業振り返り・作品ファイルをつくろう					作品ファイルの完成	180			
使用テキスト：必要に応じて資料を提供します。					その他参考文献など： 渡辺一洋「幼児の造形表現」<ななみ書房>				
受講上の留意点(担当者からのメッセージ)： 課題制作がある授業のため、毎回欠かさず出席して下さい。やむを得ない理由で課題の進行が遅れた場合は、自ら時間を作り、各課 題のまとめの時間までに遅れを取り戻してください。									

幼児教育学科

科目名: 臨床美術			担当教員氏名: 岡野 宏宣			
単 位	開講時期(年次・期)		科目の区分	授業方法	(卒業要件) 必修/選択	備考
2	1年次	前期	専門科目	演習	選択	保育士資格指定科目(選択) 臨床美術士5級
実務経験を用いてどのよ			臨床美術士養成講座講師の資格を持ち、臨床美術士として保育園や幼稚園での臨床美術の実践を生かし、臨床美術の基礎的知識やコミュニケーション方法、制作プログラムの理解について授業を行っているか。			
授業科目の学習教育目標の概要:					キーワード	
右脳の活性化と認知症予防の関係を知り、他者との関係を深めるコミュニケーション空間をつくり出し、美術療法の技術を用いて生き生きとした活動を設定する力を身に付ける。また、主体的にロールプレイングなどアクティブ・ラーニングすることによって福祉施設などで活動する実践力を身に付ける。					・臨床美術・右脳の活性化 ・認知症・コミュニケーション ・量感画	
授業における学修の到達目標						
学習教育目標 (卒業認定・学位授与の方針との関連)			自己形成を進める行動目標 (福祉マトリックスで示される番号)		2. 5. 6. 8.	
A 知識・理解力			右脳の活性化と認知症について理解することができる。			
B 専門的技術			状況や関係を把握して量感画などで表す基本的技術を習得する。			
D 問題解決力			「ひと・こと・もの」に働きかけ、豊かに表現活動の場を設定するために、情報を収集・分析・整理し、目的に応じた活動案が作成できる。			
F チームワーク・リーダーシップ			リーダー・サブリーダーなどの役割を理解しチームに参画することができる。			
H コミュニケーション力			造形を通して具体的に他者を理解しコミュニケーションをすることを通して、他者に共感でき、相手の立場に立って考える事ができる姿勢を身につける。			
成績評価の方法・基準: 以下の方法により評価し、学則および履修要項に従い、60点以上を単位認定とする						
テスト: 0 %		レポート: 30 %		発表: 30 %		実技試験: 30 %
その他: 10 %						
特記事項: 事前課題作品は100%の提出とする。欠席した場合、授業内で制作した作品及び講義内容に関する課題を課す。成績評価のレポートは事前課題の提出。発表は授業内の発言。実技試験はロールプレイングの理解と実践力。その他は積極性を指す。本科目ではアクティブ・ラーニングの一環として福祉施設などを想定して学生同士におけるロールプレイングを行います。準備物: 毎回の授業に持参してください。・ハサミ、スティック糊、割り箸ペン、新聞紙(朝刊1日分)、ウェットティッシュ、クロッキー帳鉛筆2Bか4B						
アクティブラーニング要素:						
課題解決型学習 ディスカッション、ディベート <u>グループワーク</u> プレゼンテーション <u>実習、フィールドワーク</u>						
テスト・レポート・発表・実技試験等の実施時期: 発表・実技は毎時間毎に実施する。						
課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法: 課題提出時に振り返りのコメントを伝える。						
使用テキスト: 『臨床美術士養成講座5級』, 芸術造形研究所『臨床美術・痴呆治療としてのアートセラピー』, 芸術造形研究所(使用テキストは教員が購入します)				その他参考文献など:		
受講上の留意点(担当者からのメッセージ): ・本科目は一日に2コマや続けて行う科目になります。また開講日時も不規則なため、授業日をよく確認してください。 ・オイルパステルの特性を知り、自分自身が楽しめるようになるために、継続的に描き続けてみる必要があります。						
授 業 計 画					準備学習(予習・復習等)	
					学習内容	学習に必要な時間(分)
回数						
1	授業ガイダンス			4月11日	【出題】: 自己紹介文(ガイダンスで配布)	60分
2	臨床美術入門Ⅰ「五感のアナログ画」			4月18日	【出題】: アナログ日記 ※14回目、19回目に提出	150分
3	臨床美術基幹Ⅰ-①			4月18日	【出題】: 感想文 16回目提出 私の感性地図 8回目提出	360分
4	臨床美術入門Ⅰ「りんごの量感画」			4月25日		
5	存在論的人間観			4月25日		

※前ページよりつづき

幼児教育学科

科目名： 臨床美術		担当教員 氏名： 岡野 宏宣	
授 業 計 画		準備学習(予習・復習等)	
		学習内容	学習に必要な時間(分)
6	臨床美術入門Ⅰ「立体かぼちゃ」	5月2日	準備物: 作品を持ち帰るための袋
7	臨床美術コミュニケーションⅠ「ギャラリートーク」	5月2日	
8	臨床美術コミュニケーションⅠ 「私の感性地図」鑑賞会	5月16日	【提出】・私の感性地図 120分
9	臨床美術実践の基礎「アナログクロッキー演習」	5月16日	準備物: 鉛筆(2Bか4B)
10	臨床美術コミュニケーションⅠ 「2人で描くアナログ画」	5月23日	
11	臨床美術基幹Ⅰ-② 「純粹輪郭画」「修正輪郭画」「逆さ絵～北斎の素描」	5月23日	
12	臨床美術実践の基礎「りんごの模刻」	5月30日	【出題】: りんご3種を描く 持ち物: りんご1個 ※青りんごは不可 150分
13	臨床美術コミュニケーションⅠ 「現場セッションについて」	5月30日	
14	臨床美術実践の基礎 「ロールプレイングに向けて試作」	6月6日	【提出】: アナログ日記① 準備物: さつま芋(紫芋以外で) 和紙セット(試作で使用)
15	臨床美術実践の基礎 「ロールプレイングに向けてリハーサル①」	6月13日	【提出】: りんごを描く3種 準備物: さつま芋(紫芋以外で)
16	臨床美術実践の基礎 「ロールプレイングに向けてリハーサル②」	6月13日	【提出】: 書籍『臨床美術』の感想文
17	臨床美術実践の基礎 「ロールプレイング①」	6月20日	準備物: さつま芋2個
18	臨床美術実践の基礎 「ロールプレイング②」	6月20日	
19	臨床美術実践の基礎 「総括」	6月27日	【提出】: アナログ日記② 準備物: 臨床美術協会資格認定申請書 (課題をすべて提出している方)
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			

幼児教育学科

科目名: 保育表現技術(言語表現)				担当教員 氏名: 岩田 郁代					
単 位	開講時期(年次・期)		科目の区分	授業方法	(卒業要件) 必修/選択	備考			
1	1年次	前期	専門科目	演習	必修	保育士資格指定科目(選択)			
実務経験を用いてどのような授業を行っているか:		担当年齢の幼児の発達を踏まえ教材を作成し、学外の幼児施設に赴き、実際に保育し、振り返りを行う。							
授業科目の学習教育目標の概要:					キーワード				
保育の内容を理解し、幼児の遊びを豊かに展開するために必要な知識や保育技術を習得する。特に言語表現に焦点を当てる。また、表現活動に用いる教材等の作成及び活用と、保育の環境構成及び具体的展開のための保育技術を、グループでの模擬授業や実際の幼児達に演じることでより学びを深めていく。					<ul style="list-style-type: none"> ・児童文化財 ・幼児の発達 ・言語環境 ・保育技術 				
授業における学修の到達目標									
学習教育目標 (卒業認定・学位授与の方針との関連)									
B 専門的技術			絵本、紙芝居、パネルシアター、素話等に関する知識と保育技術を習得する。						
A 知識・理解力			幼児自らが児童文化財等に親しむための言語環境構成を考える。						
D 問題解決力			言語表現活動の展開について総合的に学ぶ。						
F チームワーク・リーダーシップ			役割を分担しながら実践保育をすることを通して、他者と協働し共に育ち合う。						
成績評価の方法・基準: 以下の方法により評価し、学則および履修要項に従い、60点以上を単位認定とする									
テスト:	%	教材製作:	40 %	発表:	50 %	実技試験:	%	その他:	10 %
特記事項: 授業態度や講義のレポート、製作課題への取り組みや発表、グループ活動貢献度等から総合的に評価する。									
アクティブラーニング要素: 課題解決型学習 ディスカッション、ディベート <u>グループワーク</u> プレゼンテーション <u>実習、フィールドワーク</u>									
テスト・レポート・発表・実技試験等の実施時期: ⑬⑭コマ目に学外の園で実践を行う									
課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法: 毎回の演習を互いに見合い具体的に評価し、改善を加え、学外で自信をもって演じられるようにする									
授 業 計 画				準備学習(予習・復習等)					
				学習内容	学習に必要な時間(分)				
① 言語表現活動のねらいと内容及び児童文化財について知る				年齢に応じた絵本の選定	30分				
② 幼児の発達における題材の選び方(0歳児から2歳児)を学ぶ				他者からの評価を受け再選定	30分				
③ いろいろなパネルシアターを知る				教材の決定	60分				
④ 教材製作をする				教材の製作	120分				
⑤ 教材製作をする				教材の製作	120分				
⑥ グループ毎の模擬発表・協議(第一回目)・改善する				教材の改善	60分				
⑦ グループ毎の模擬発表・協議(第二回目)・改善する				教材の発表練習	60分				
⑧ 他のグループ毎の模擬発表・協議(第三回目)・改善する				教材の発表練習	60分				
⑨ 全体での模擬発表・協議(第四回目)・改善する				教材の発表練習	60分				
⑩ パネルシアターの実技に参加する				演じ方の改善	60分				
④ グループ毎の模擬発表をする				演じ方の改善	60分				
⑫ 学外実習の予行練習をする				導入の練習	60分				
⑬ 学外実習(学外の幼児施設) * ⑬と⑭の2コマを充てる				実践の評価	60分				
⑭ 学外実習(学外の幼児施設) * ⑬と⑭の2コマを充てる				実践の評価	30分				
⑮ 実習の確認・まとめ				ファイルの作成	30分				
使用テキスト: 特に使用しない				その他参考文献など: 教育・保育要領解説(フレーベル館) 倉橋惣三選集(学術出版会)					
受講上の留意点(担当者からのメッセージ): アクティブラーニングの一環として、個人でパネルシアターを作成し、模擬発表と評価・改善を重ね、最終には学外に出て実習する場を設けています。毎回の出席が原則です。やむを得ず欠席した場合は、各自で時間を作り遅れを取り戻してください。授業内容をきちんと整理し実践に役立つようファイリングしておきましょう。									

幼児教育学科						
科目名: 保育実習指導 I-①				担当教員 氏名: 清水、泉、石津、岡野、宮越、高橋		
単 位	開講時期(年次・期)		科目の区分	授業方法	(卒業要件) 必修/選択	備考
1	1年次	前期	専門科目	演習	選択	保育士資格指定科目(必修)
実務経験を用いてどのような授業を行っているか: 保育教諭としての実務経験を生かして、保育実習の意義や保育士や保育所の役割、計画の立て方について教授する。						
授業科目の学修教育目標の概要:						キーワード
保育実習 I-①は、「事前学習」「実習」「事後学修」という流れの中で行われる。本授業は、事前学習として、保育実習の意義、保育士や保育所の役割、実習計画の立て方等を学ぶ。						・保育実習の意義 ・保育士と保育所の役割 ・実習計画
授業における学修の到達目標						
学修教育目標 (卒業認定・学位授与の方針との関連)						
A 知識・理解力			保育実習の意義を理解するとともに、守秘義務などの留意事項を踏まえ、実習の内容について理解する。			
E 自己管理能力			保育実習に必要な手続きを行う。			
C 論理的思考力			保育実習における計画を立てる。			
D 問題解決力						
成績評価の方法・基準: 以下の方法により評価し、学則および履修要項に従い、60点以上を単位認定とする						
テスト:	%	レポート:	%	発表:	%	実技試験: %
その他: 100 %						
特記事項:						
アクティブラーニング要素:						
課題解決型学修 <u>ディスカッション、ディベート</u> グループワーク プレゼンテーション <u>実習、フィールドワーク</u>						
テスト・レポート・発表・実技試験等の実施時期:						
課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法:						
授 業 計 画						準備学修(予習・復習等)
						学修内容
①オリエンテーション(授業の目標、進め方について) 保育実習の意義と概要(保育実習の目的と内容の確認)						60
②保育士と保育所の理解(保育所の生活と保育士や保育所の役割)						120
③保育実習に向けた実践と制作について						120
④保育実習 I-①について(実習内容と実習に際しての留意事項)						120
⑤実習における観察と記録(観察の仕方と実習日誌の書き方)						120
⑥外部講師による講義(保育所の生活と実習生のこころがまえ)						120
⑦保育における実践(手遊びや絵本の読み聞かせについて)						120
⑧保育所見学について(概要、留意事項確認)						120
⑨保育所見学1(系列園による実習)						120
⑩保育所見学2(系列園による実習)						120
④保育所見学の振り返り(実習日誌への記録、グループワーク)						120
⑫実習における計画と実践(部分実習や指導案について、実習に必要な書類)						120
⑬実習における計画と記録(指導案の書き方)						120
⑭実習における計画と実践(指導案の立案)						120
⑮実習の計画と実践(手遊びや絵本の読み聞かせの実践)						120
使用テキスト: 1. 小櫃 智子、田中 君枝、小山 朝子、遠藤 純子(編著)『改訂版 実習日誌・実習指導案パーフェクトガイド』(わかば社)ISBN:978-4-907270-43-8 2. 小山 朝子、小櫃 智子、井上 裕美子、小島 好美(編著)『保育の活動・遊びパーフェクトガイド』(わかば社)ISBN:978-4-907270-44-5 3. 厚生労働省(編著)『保育所保育指針(平成30年3月版)』(フレーベル館)ISBN:978-4-577-81448-2 ※3のテキストは保育原理でも使用						その他参考文献など:
受講上の留意点(担当者からのメッセージ): 本科目の単位を履修するためには、全ての授業に出席し課題に取り組むとともに、保育実習 I-①を履修する必要があります。また、実習を行うにあたって実際の保育現場で必要なことを学ぶ重要な授業であり、積極的な取り組みが求められます。上記時間外においても実習内容等に関して予習・復習・準備に主体的に取り組んでください。その他、必要に応じて追加授業を行うことや系列園との都合に合わせて適宜授業計画を変更することがあります。 本科目の履修状況によっては、保育実習 I-①の履修を認めないことがあります。						